

12月11日 6年生

総合『『門小平和大使』平和展示会で在校生に平和の大切さを伝えよう!』

6年生は、「平和大使になろう」という切り口から【表現】に力を入れて学んでいます。

これは、6年生の子どもたちの様子を見て、

- ★ 自分に自信をもてない子が多いので、自信をもつきっかけを作りたい!
- ★ 声の大きい子に流されてしまうので、自分の考えをしっかりと伝えられる子に育てほしい!
- ★ やらされ感が強く、自分事として、自分たちが主体となって学ぶ経験をさせたい!

こうした願いをもって、平和学習に取り組んできました。

今日は、表現の場「在校生を招いて、それぞれの学びや伝えたいことを、様々な表現方法で伝える活動」に取り組んでいました。

スライド(クイズ)・模型(平和の灯)

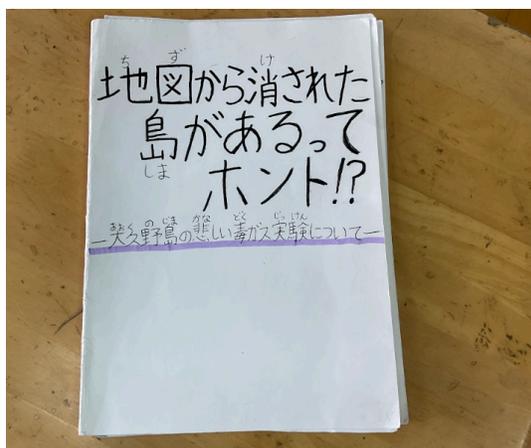
広島平和記念公園では、原爆ドーム、平和の灯(ともしび)、原爆死没者慰霊碑、広島平和記念資料館が南北に一直線に配置されています。それを模型にして伝える工夫。理科の豆電球を使ってうまく表現していました。そして、たくさんの情報をスライドにしてプレゼンしていました。



紙芝居

図鑑・スライド写真

大久野島と戦争について図鑑のような形にしてまとめたものを見せながら、説明していました。一人でも堂々とプレゼンする姿がかっこよかったです。また、同じフロアの友だちとたくさんお客さんが来たときはどうするかなど、動線や人数配分も考えられていて、感心しました。



スライド(クイズ・絵本)

紙芝居チームは、ていねいに絵をかいたり、低学年の子には絵だけでは伝わりにくいと思って、ペー
プサートのようなアイテムを作って、紙芝居に人形
を登場させて伝える工夫をしていました。



スライドだけでなく、クイズを入れたり、絵本のような形
にしたり、伝える工夫をしていました。スライドを見たり、
自信がなくて声が小さくなりがちでしたが、回を重
ねるごとに自信がついて伝える姿が見られました。



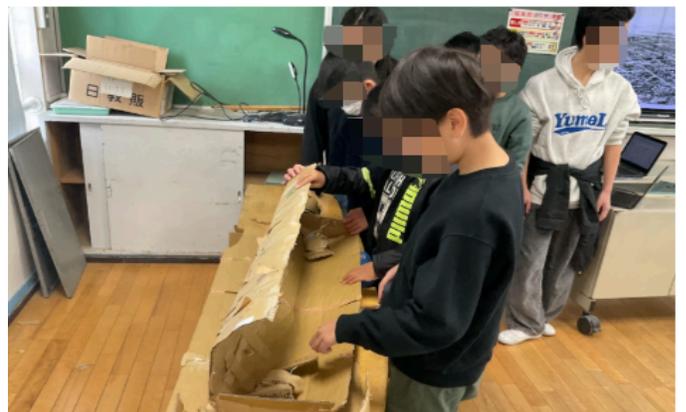
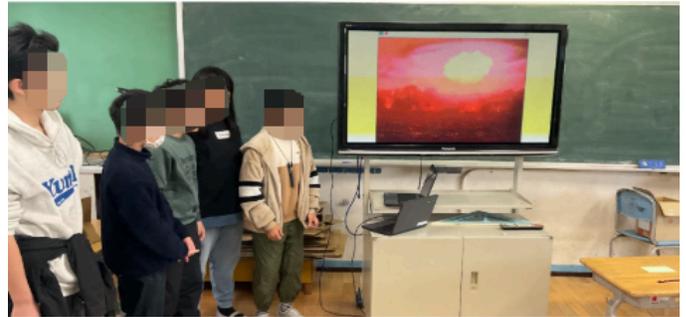
避難体験(防空壕へ)

はじめは一人の表現活動なので、どうしたらいいか一人で悩みに悩んでいました。一番心配したのが移動(避難)するときに楽しい雰囲気になってしまわないか、ということでした。空襲のサイレン音、避難するアニメ映像を入れて、1年生でも臨場感のある避難体験を生み出していました。



スライド・模型(リトルボーイ)

原子爆弾に焦点を当てて、戦争のおそろしさを表現しました。実際手に取れる原子爆弾の模型を作ろうということで、段ボールを使って実物大より少し小さな1/2スケールのもので作りました。作成中、上の部分がはがれ、バラバラになって失敗だと騒ぎになりましたが、いっそのこと、半分ずつの模型を開けて中身を見られる仕様にしてはということで、逆にユニークな展示になりました。



スクラッチのアニメ

表現方法を早い段階から「スクラッチ」というプログラミング機能を活かして発表したいという思いを持った2人でした。飛行機が飛んでくる様子や町の様子をプログラミングのアニメで表現しました。1つ動かすのにも命令を入れて、動きの大きさや方向を入力して、動きを確認して…となかなか大変な作業でした。

人形劇

シナリオ台本を考える、ペープサートのような人形を作るなど役割分担をして進めていました。低学年でも分かりやすく人形を準備して表現しましたが、子どもからは「たのしかったー!」「おもしろい!」という声が返ってきていましたが、伝えたい内容とは少しずれていたため、この点も振り返りの材料になると思いました。



スライド(動画)

動画を活用したスライドで発表しました。原子爆弾の熱線で溶けて影だけ残った写真を見せた時、2年生の子が不思議そうな顔をしていました。どうなったのか、伝わっていなかったようです。そのとき、言葉を簡単にしたり、身振り手振りで説明して、「とけたってこと？」という言葉を引き出していました。



クイズ・ポスター

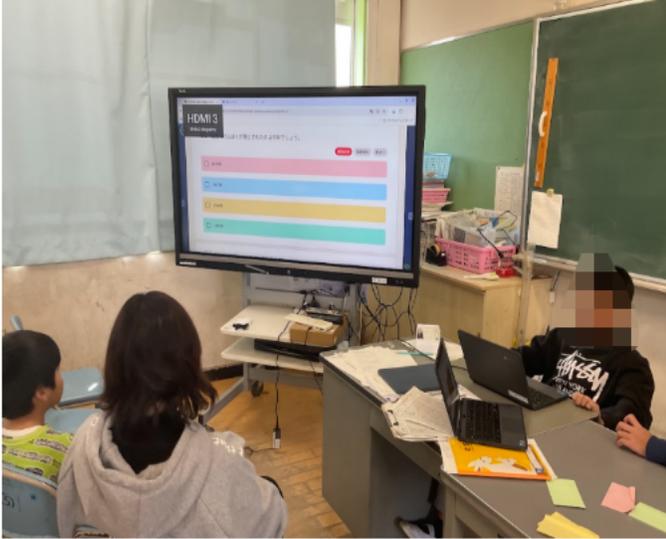
カフートのクイズ機能を使って、なぜ大久野島は地図になかったのか？ウサギがいるのか？何をしてたのか？などを伝えていきました。クイズ形式で、お客さんに答えのボタンを押してもらったり、低学年でも集中を切らさず聞ける工夫が取り入れられていました。相手の反応を見て話す姿がステキでした。



スライド

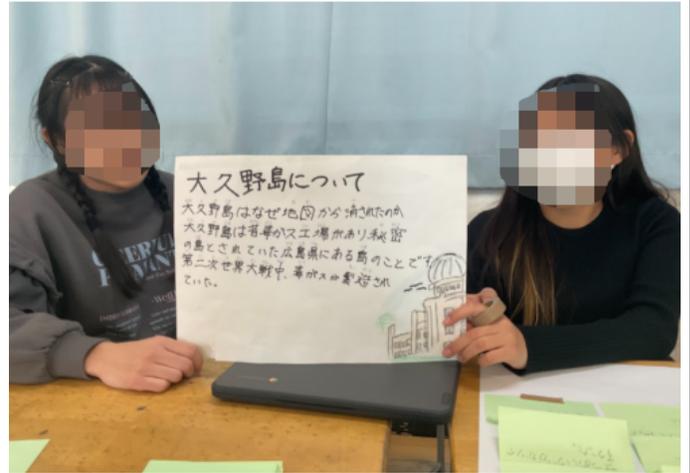
戦争について基本的な情報をロイロノートのクイズ機能を使って、伝えていました。

「げんしばくだんがおとされたのは、つぎのうちのどの年でしょう?」「何色やと思う?」などの声掛けとともに、低学年にも分かる工夫がされていました。



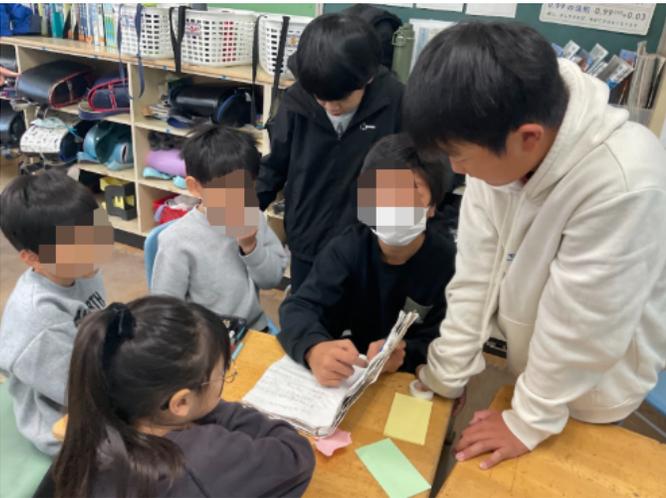
スライド・ポスター

スライドを作るときから、低学年向け、高学年向けと使い分けて作ろうと声掛けをしていました。表現の際は、スライドの読み原稿を作っていましたが、それを読むとどうしても言葉が硬くなり、伝わりにくい表現になりがちでした。質問をしたり会話調にしていくと、分かりやすい表現になったので、表現慣れが必要だと感じました。



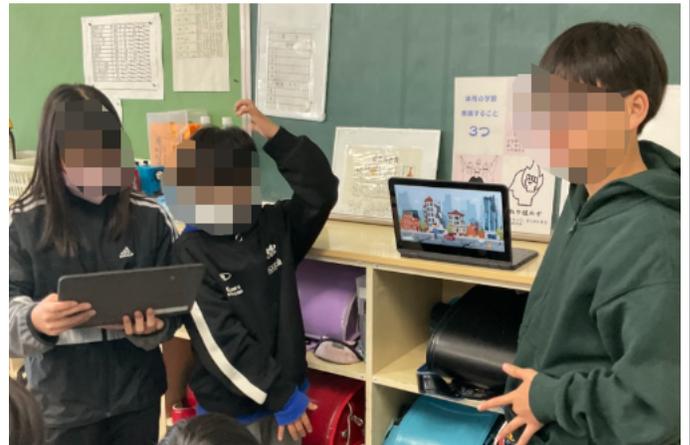
図鑑

「広島でおきたこと」というタイトルの図鑑型の紹介本を作りました。これをもとにお客さん相手目線に立って、伝えていました。



スライド(物語)

スライドのアニメーション機能を使って、人や飛行機を動かして伝える工夫をしていました。役割分担をしてそれぞれが伝える姿が印象的でした。



実は、はじめは子どもにどんな表現方法で伝える?とたずねた時、多くの子がスライドを選択しました。ただ、このスライドという選択は、相手により伝わる表現方法か考えての選択なのか、それとも自分たちでこれまで経験してきたから安心の選択なのかを分析しました。そこで、6年生の先生と、ここは6年生にとってできる安心の選択よりも、チャレンジの選択の方がより成長につながると判断して、ちがった表現方法を考え直してもらいました。

そしてこのような多様な表現方法での平和展示会になったのです。

もう一つ、面白いなあと思ったことがあります。

今日は、1時間目:4年生、2時間目:1年生、5時間目:2年生と3時間にわたり、それぞれの学年に平和展示会の表現をしていました。

1回目の表現でふりかえりやお客さんや友だち、先生からのフィードバックがあつて、改善しようとしている児童は、ぐんと表現の成長がみられたことです。

やはり子ども主体は、やらせっぱなしでは身につかないこと、指導・ふりかえりが必要だと思った瞬間でした!

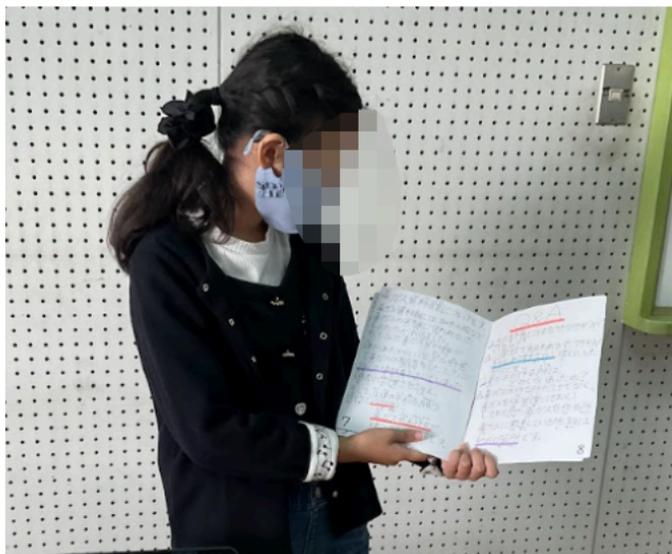


この場面は、2年生が説明に対して頭に「??？」が浮かぶ表情をしていたので、「この写真、意味わかる?」と2年生に聞いたところ、よくわかっていないというのが6年生に伝わったあとの場面です。

このあと、読み原稿を捨て、身振り手振りで2年生に分かりやすい伝え方に大きく変化しました。

2年生からは、「え、あつくて、とけたってこと?」という発言を引き出し、相手意識をもって伝えることの大切さを学んだ瞬間でした。

before フィードバック



after フィードバック



次にこの子です。1時間目は、必死だったのでしょうか、図鑑の方に目が行き、相手の様子を見て伝えることはできていませんでしたが、その後のフィードバックを受けて、2時間目には、相手の様子確かめながら、話し方もゆっくり相手に合わせた話し方に変化しました。録音して比べたら、全然違うのが分かると思います。



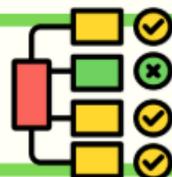
次に、こちらの子。ほぼマンツーマンに見える写真になっていますが、2人のお客さんに対して、本当にいいいに寄り添った話し方で説明していました。クイズの場面では、2年生の子が嫌な気持ちにならないように、まちがってもフォローの言葉、正解したときには、大きく喜ぶリアクションで2年生を励ましていました。6年生では、この下の「伝え方のワザ中級編」をもとに表現指導しています。

伝え方のワザ中級

話し方 説得力を持たせる話し方
(声の大きさ、間、強弱、速さなど)

資料 効果的な事例や資料を選ぶ
(相手に合わせた内容、言葉、説明)

時間 発表する時間に合わせて、
情報を選んで構成する

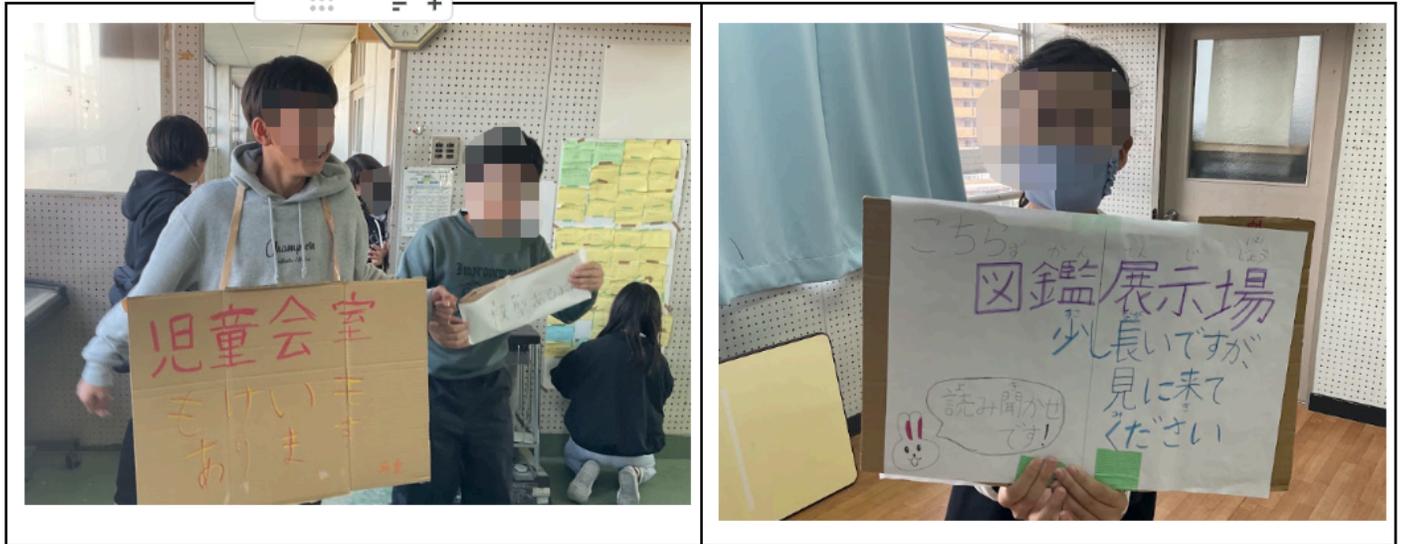


こちらは、おまけの一コマです。

お客さんが来なくて、人を呼びたかったのでしょう。

お店の客引き、呼び込みをはじめました。

某スーパーのテーマソングや「たのしいよー」などの呼び込みになっていたのに、先生からは指導が入りましたが、やり方に良い悪いはあれど、自分で考えてアクションが出るのは、子どもが主体的になっている大きな証拠です。



6年生の先生の願いに近づく大切な大切な学習になったのではないかと思います。

ぜひ、この学びや表現の課題に関して、しっかり子どもたちと振り返りをして、大切なポイントを学びとらせてほしいと思います。

引き続き、いっしょに学ばせてください！